

一般社団法人奈良県言語聴覚士会

平成最後の年に法人化 地域社会にさらなる貢献を

一般社団法人 奈良県言語聴覚士会 副会長 上田 健志

令和元年6月「奈良県言語聴覚士会」は一般社団法人として新たな出発をいたしました。ご支援とご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

当会は情報が少ない時代に先輩方が臨床での悩みを持ち寄り集まった小さな勉強会から始まりました。そして平成17年3月に会員数66名で任意団体として発足、今年で14年目を迎えました。現在会員数は158名となり、現道上千智会長で2代目となります。

平成30年度定期総会記念講演に内山量史協会副会長をお招きし、その中で「平成最後の年に法人化しよう」と熱く激励していただいたことを皮切りに当会の法人化取得への動きは進み出しました。法人化の必要性は任意団体を運営する中で感じてはいたのですが、それでも中々一歩踏み出せずにいた我々に、内山先生は多くの時間を費やし進むべき道を指し示してくださいました。また隣県でいつもお世話になっている藤井達也大阪府士会会長からも「一緒にやろう」と一声かけていただき、心強い二人の大先輩からの手厚いサポートを受け、スタッフの気持ちは一つとなり一気に前進しました。直ちに理事会で承認を得てメンバーを募り法人化検討委員会を設置。まずは法人格を持つ意味や手続きなどについて理解を深めるべく藤井会長の元へ相談に何度も伺いました。そして定款作成、法人登記、司法書士・税理士との面談等と、今まで任意団体では目にしなかった書類やシステムについてたくさん学ばせていただきました。

その後、会員への啓発や説明会、HPへの掲載とパブリックコメントの募集・議案書の作成等、慣れない仕事がたくさん続きましたが、平成31年4月無事に法人格を取得するに至りました。そして協力賛同していただいた多くの方々のお力添えで、令和元年6月16日に総会を経て正式に一般社団法人設立となりました。

新しいことばかりで理事一同、戸惑いながらですが、法人化した士会を運営し半年が経過しました。少しでも賛同していただいた会員の皆様に還元しようと、日々勉強を続けています。財務面では何とか会費の値上げをせず一般社団法人として適切な内容で運営できるよう税理士と面談を繰り返しました。

現在、我々都道府県士会には従来の会員資質の向上や交流の場といった役割以上のことが求められており、国が推進する「地域リハビリテーション活動支援事業」、「失語症者向け意思疎通支援事業」では、行政や関連団体との連携強化を図り、士会の運営から事業展開に至るまでを担っています。

この度、法人格を有したことにより、社会的信用が得られ、行政や関連団体にも正式に認めてもらえるようになりました。我々「一般社団法人奈良県言語聴覚士会」は言語聴覚士の知識・技術の研鑽は元より、地域社会における医療、保健、教育などの発展に寄与できるよう、努力していく所存です。



世界遺産東大寺大仏殿のバックヤードで内山副会長と「法人化を誓う」



(上) 藤井大阪府士会会長と道上奈良県士会会長
(左) 藤井会長と法人化検討委員会のメンバー